

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 清瀬の里		
所在地	下松市清瀬町3-1-10		
電話番号	0833-44-5801	事業所番号	3570700306
法人名	有限会社 清瀬ホーム		

訪問調査日	平成 22 年 3 月 25 日	評価確定日	平成 22 年 6 月 17 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	19 人	常勤 11 人 非常勤 8 人 (常勤換算 14.7 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 40,000 円	敷金	無	円
保証金	有 240,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	400 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額	13,000 円		
	内訳	光熱水費 8,000円 管理費 5,000円		

### (4) 利用者の概要 (3月25日現在)

利用者数	18 名	男性 6 名	女性 12 名	
	要介護 1	1	要介護 4	3
	要介護 2	1	要介護 5	6
	要介護 3	7	要支援 2	
年齢	平均 87.4 歳	最低 74 歳	最高 101 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	内科 めぐみ内科クリニック 歯科 原田歯科医院
-------------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	外出を察知したらさりげなくつきそい利用者の気のすむまで一緒に歩いたり、利用者の生活歴や言動から利用者の思いや望んでいること、行動パターンを察知し、利用者一人ひとりの行動を見守り、気づき、尊厳を尊重した個別ケアを行っておられます。社員を育てる取り組みでは、年間の研修計画を立てられ、段階に応じた外部研修の受講や資格取得への支援をされ、各種マニュアルは社員一人ひとりに配布しておられます。
(特徴的な取組等)	認知症サポーター養成講座やフォローアップ研修を地域の「いきいきサロン」や家族会で行い、地域の要請による認知症講座など、ホームが中心となり、地域ぐるみで高齢者を支えようという取り組みを行っておられます。結果として近隣住民がサポーターとなりホームの行事への協力や参加、地域による利用者の見守りや声かけが行なわれ、緊急時には地域の協力が得られる体制が出来ています。年1回、運営推進会議と家族会との合同会議で、認知症やホームについての理解を深めて戴くと共に、昼食時には双方の懇親を図っておられます。

## 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	前回の評価結果を基に、社員会議や運営推進会議で話し合われ、ホームの状況を常に把握しながら事業所として取りんでゆきたい項目を提案され、サービスの質の向上に取り組んでおられます。
(今回の自己評価の取組状況)	自己評価の様式を社員に提示され、評価項目を共通理解した後、意見や思い、希望を記載してもらい、社員会議で話し合いながら運営者や管理者4人でまとめておられます。それぞれ評価の意義をよく理解し、自らが提供している介護について振り返る良い機会とされています。
(運営推進会議の取組状況)	民生委員4名 認知症サポーター3名 有識者、家族、地域包括支援センター、市担当課、法人代表者をメンバーとして2ヶ月に1回開催し、事業所の活動や行事の報告、意見交換を行なわれ、出された提案や意見はサービスに活かしておられます。
(家族との連携状況)	毎月家族に配布されるホームだよりに、利用者一人ひとりの状況やお知らせ事項を個別に記入し報告しておられます。面会時には口頭での報告や相談などで家族の要望や意見を聞き、電話による連絡も行なっておられます。家族会があり昼食会や夏祭り、餅つき等家族が参加して一緒に楽しめる行事があり、運営推進会議との合同会議も行なわれておられます。
(地域との連携状況)	自治会に加入され、運動会や清掃活動等、地域行事に参加しておられます。夏祭りや餅つき等の事業所の行事には地域の方々に参加され、散歩や外出、菜園では気軽に声をかけられ、日頃から地域と係わり合いながら暮らしておられます。家族や地域の「いきいきサロン」で認知症サポーターの養成講座やフォローアップ研修を行い、近隣住民の見守り等のネットワークも構築されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域密着型サービスとして、地域の中で地域に支えられながら生涯をその人らしく暮らし、併せて地域にも貢献できる地域福祉文化の創造やネットワークづくりを、事業所の理念としてつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>社員会議で理念の実践に向けた話し合いをしており、ホーム内やスタッフルームに理念を掲示し常に意識を持って介護に従事している。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、清掃活動や運動会等の地域行事に参加しており、事業所の夏祭りや餅つきには地域の人も参加し、ふれあいを深めている。地域の「いきいきサロン」で認知症のサポーター養成講座やフォローアップ研修を行い、地域と関わりを持ち交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、社員共に評価の意義を理解している。社員は自分の言葉で評価結果を記載し、取り組みたい事項についても介護の現場従事者の視点を持ちながら、具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>民生委員4名、認知症サポーター3名、家族、有識者、地域包括支援センター、市担当課、運営者、管理者で2ヶ月に1回開催し、利用者の様子や事業所の活動や行事の報告を行っており、活発な意見交換により様々な提言を貰い、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護相談員の受入れや地域包括支援センターの要請による研修の講師や相談業務への支援を行いながら、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行するホーム便りには個別のお知らせ事項を記載し、金銭管理状況と共に家族に送付している。面会時の報告もきめ細かに行なわれ、緊急時や受診に係る必要に応じた連絡は電話を利用している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会があり、運営推進会議と合同の会議が行われ、意見や要望、気づきなどを提案してもらっている。相談や苦情を受け付ける窓口や社員、第三者委員も明らかにされており、苦情処理の手続きを定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度社員の話し合いにより柔軟に対応している。厨房専任の非常勤社員の配置やフリー的な管理者の配置等、夜間を含めすぐに対応できるような体制にしている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	社員は両ユニットを行き来し、夫々のユニットの利用者と馴染みの関係ができるよう配慮しており、急な離職に備えている。結婚や出産による退職はあるが、育児休業制度や就業時間の短縮を導入し、福利厚生制度の充実等、楽しく働き続ける為の職場環境を整えている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間の研修計画が作られており、段階に応じた外部研修の受講や資格取得に係る支援制度があり、働きながらトレーニングしてゆくことを進めている。人事考課により職員のやる気の醸成にも取り組んでいる。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域内に同業者の組織があり、行事を通じて他ホームの職員や利用者との交流を深めている、2ヵ月に1回、ケアマネジャーと管理者が集い困難事例の検討や情報交換を行い、相互に他事業所の運営推進会議の委員になり合い、サービスの質を向上させていく取り組みとしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に家庭訪問を行い、家庭での様子や暮らしぶり、就寝時間、希望、不安なことなどをしっかり聞き、顔なじみの関係を作り、利用後も家族の宿泊や自宅への外泊など無理をしないで徐々に馴染めるよう配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>普通の家庭のように共に暮らし、喜怒哀楽を共にする事で支えられたり支える関係が構築されている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式のシートを利用し、一人ひとりの生活歴や、暮らしの中でのその人独特の言葉を聞き取り、利用者の思いや意向、行動パターンを把握している。介護記録にも書き留め、困難な場合は本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月、社員会議やミーティングを行いモニタリングを実施しながら、医師、看護師、本人や家族等必要な関係者と話し合い、関係者の意見やアイデアを取り入れた介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画は3ヵ月毎に更新しているが、利用者の状態の変化に応じて家族や必要な関係者と話し合い、新たな介護計画を作っている。</p>	
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>協力医やかかりつけ医への受診、お花見やドライブ、行きつけの理髪店、買物等、利用者や家族の希望に応じ個別に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者一人ひとりにかかりつけ医があり、受診の送迎や付き添いなど、適切に医療が受けられるよう支援している。ホームの協力医は365日24時間の対応が可能で、昼食会や餅つき、夏祭り、家族会などのホームの行事にも医師の家族と共に参加する等、なじみの関係が作られている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りの経験は無いが、希望や利用者の状況に応じ、看取りや終末期に対応する姿勢を持っており、その都度かかりつけ医や家族と一緒に話し合い、今後の対応や方針を共有する事になっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	研修を通してプライバシーを損ねるような声かけや対応をしないよう配慮している。接遇マニュアルは社員一人ひとりに配布し、随時読み返している。記録や個人情報の取り扱いにも配慮している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り利用者一人ひとりのペースで暮らせるよう配慮されており、利用者の希望に応じた対応をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食共ホームで調理し、厨房専門の非常勤社員が調理を担当している。一人ひとりの好みや食べられない物を厨房に表示し、一人ひとりの食の好みを尊重している。行事食も取り入れ、利用者と社員と一緒に食事を摂り、準備や片付けを行い、食事が楽しみなものであるよう支援している。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日、15:00～18:00の間で一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援をしている。利用者一人ひとりに個別対応しており、ほとんど毎日入浴を楽しんでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や力を活かして野菜作りや趣味を活かした俳句の吟行やドライブ、買い物等気晴らしの支援をしている。階段が上がった場所に飲料水の自動販売機が設置しており、楽しみに利用している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望にそって散歩や買い物、ドライブ、吟行等戸外に出かけられるよう支援している。広い庭の正面には家庭菜園があり戸外での作業を楽しみにしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	運営者及びすべて社員は身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束の無いケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての社員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は施錠していない。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを社員全員に配布し、随時確認をしながら事故防止に取り組んでいる。利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、目配り気配りで問題行動を察知し、事故を未然に防ぐよう配慮しており、介護計画にも反映させている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署が行なう救急救命講習は社員全員が受講し、心肺蘇生法やAEDの取り扱いを学んでいる。マニュアルが整備しており、急変や事故発生時の対応については、スタッフルームに掲示し、何時でも確認できるようにしている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災に対してスプリンクラーの備えがあり、消防署の指導により避難訓練を実施している。非常時の近隣地域の支援について運営推進会議でも取り上げられ、認知症サポーターや民生委員が中心となって対応することになっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者毎に服薬している薬の使用目的や副作用を記入した薬の情報書を作成し、何時でも確認できるようにしている。薬については服用前に確かめ誤薬を防ぐと共に、一人ひとりに手渡し、服用を確認している。利用者の状況の変化や異常については、医師、看護師、薬剤師に報告し相談している。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	利用者の状態に応じ、声かけや直接的な支援を行っている。義歯や歯ブラシの清掃や保管等の取り扱いも適切に行なわれている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要に応じ食事摂取量を記録し、水分の確保が適切であるよう支援している。月に一回、栄養士の検食や社員に対する栄養相談や指導が行なわれ、適切な食の提供に配慮している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症予防マニュアルを作成し、流行期又は随時に確認を行い、感染症予防に努めている。手すりやドアノブの消毒や手指の消毒を行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は不快な音や光はなくソファや椅子が置かれ、利用者が自由にくつろいでいる。廊下には季節の飾り物や季節の花が活けてあり、生活感や季節感を感じさせ、厨房や食堂から五感に働きかける様々な刺激を取り入れて、居心地よく、過ごせるような工夫をしている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は馴染みの家具や小物が持ち込まれ、畳に布団、畳にベット等各自の生活習慣に応じた居室となっている。希望に応じ、テレビや冷蔵庫が搬入され、家族の写真やカレンダー、室内装飾が施され、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム清瀬の里
所在地	下松市清瀬町3 1 10
電話番号	(0833) 44 5801
開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 2 月 12 日現在 )

ユニットの名称	ユニット1			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	0	要介護 4	3
	要介護 2	1	要介護 5	4
	要介護 3	1	要支援 2	0
年齢構成	平均 86.7 歳	最低 78 歳	最高 101 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	社員から意見を聴き、管理者・法人各2名ずつ、計4名が記入
評価確定日	平成 22 年 2 月 12 日

## 【サービスの特徴】

認知症高齢者の方が、自立した日常生活ができる生活環境づくり、家庭的なぬくもりや癒しのある住まいづくりをする。  
家事や野外での野菜づくり等を通じて、認知症高齢者の脳を活性化し、残存能力を発揮を促す。利用者本位のよいサービスを提供し、介護させていただいているという気持ちを忘れない。



# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b></p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b></p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b></p> <p>管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b></p> <p>運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b></p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b></p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		ホーム内でしか行っていない行事もあるので、新しい行事の提案を出して、もっと隣近所と関わりの持てる場をつくっていきたい。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b></p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b></p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を受けるときは、ありのままの生活状態で受け、その評価に対し会議で話し合い、改善に取り組んでいる。介護への取り組みの視点を項目で見直している。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	事業所からの提案を行い取り組みについての意見を受け止めサービスに活かしている。認知症について知りたい、家族はどのように対応したらよいのかという質問からの「いきいきサロン」の講師やサポーター養成の開催も取り組みの1つである。	サービスに活かせるような様々な角度からの意見・要望を多くいただくために、運営推進会議のありかたについて原点に戻り、会議の議題や内容をさらに検討したい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	毎月1回、利用者状況と待機者状況の報告を行っている。また、地域包括センターから地域での講師を依頼されたり相談をうけて対応したり介護相談員の受け入れなどの連携をとりながら、市町の要望と意向にそった形でサービス向上に活かしている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者は外部研修及び保有資格の研修を通じて学ぶ機会を持ち、社員は社員会議の中で管理者から学んでいる。利用者の家族から相談を受けたときには、制度についての説明や情報をきちんと伝えている。	家族昼食会の行事時、利用者家族の方や関係者に成年後見制度について話す機会を持ちたい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関することや虐待につながる行動を社員会議で取り上げ虐待の防止に取り組んでいる。外部研修に社員が参加し、会議で発表している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前に必ず本人や家族にしっかり説明している。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部から定期的に介護相談員の訪問があり、利用者は直接介護相談員に意見、不満、苦情を訴えることができ、出された意見等は事業所に提言されるようになっている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便り「清瀬の里だより」にて、利用者の状態を書くスペースをもうけ、担当社員が状態を報告している。家族が来られた際にも、近況を報告している。小遣い帳をつけ、領収書を送り、毎月の収支を報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	開示の要求に応じて、ケース記録等を見てもらっている。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	重要事項説明書に苦情申し立ての連絡先や方法を記入し、家族の方に配布、ホームに提示している。苦情受付窓口があり、直接言いにくい場合は、家族会や家族会の代表者を通して、意見を出してもらえるようにも通知している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	社員会議で社員の意見や提案を聴く機会を設けると同時に、書類(稟議書)による提出で、社員意見を反映させている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態にあわせ家族等で話し、勤務時間帯の変更等、調整をしている。日中フリーに動ける社員がいるよう勤務を組んでいる。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	社員が働きやすい職場環境や福利厚生に気を配り、ポジティブアクションに取り組む中で結婚・出産による離職をできるだけなくすよう支援している。産休育休は現在まで2名(のべ3名)取得している。また、新入社員の入社後、約1ヶ月間は在職者とともにシフトを組んで利用者への援助を行うことで利用者が戸惑わない配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は年間の研修計画をたてており、社員会議等での内部研修のほか、段階に応じて外部研修を受講させている。業務の上でのスキルアップを図るための資格を取るための長期休暇(現場実習)にも柔軟に対応している。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	社員の年代・経験は多様であり、女性の多い職場だが、社員間では気軽に意見を交換し伝達できる環境が整っており、多様な個性を持ち合わせた社員による対応が可能となっている。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	行事を通じて、他ホームの職員や利用者、交流を深めている。2ヶ月に1回ケアマネジャーや管理者が集まり事例検討や情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		問題が発生した場合、社員から相談しやすい環境づくりに取り組みたい。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		社員がそれぞれ問題意識を持ち、目標をもって働くことができるよう、人事考課による評価を社員自身にフィードバックしたい。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		運営者・管理者の評価のみならず、社員自らの評価が反映されるような方法も考えていきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		社員と利用者は同じ空間で共に過ごす家族のような関係を保ち、時に笑い、怒り、泣くことで信頼を深め、形だけでなく、気持ちで通じ合える存在となれるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 <b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家庭的な雰囲気の中で社員と家族の方が一緒に介護していくという考えである。		重度化が進むと、もっと支え合う関係が必要になると思うので、連絡は密に取り合っていきたい。
34 <b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の間が険悪な場合、おしつけではなく、それとなく本人の状況などを報告し、面会に来ていただく様、話している。		
35 <b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族には行事等の参加を促し、できるだけ面会の機会を提供している。また、利用者にとっては思い出の写真を飾ったり、なじみのあるものをホーム内に置いている。年賀状はできるだけ利用者本人に書いていただいている。社員と一緒に利用者の自宅へ帰ることがある。		
36 <b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	笑ったり、助け合ったり、時には言い合いになったりと、毎日どこにでも見られる普通な生活だと思う。		
37 <b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	病院やスーパーで出会った際には、声をかけたり、声をかけていただいたりしている。時々、尋ねてくださる家族もあり、その際には近況報告を頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) <b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人の主訴に耳を傾け、意向に沿ったケアを状況に応じて行う。困難な場合は本人の立場に立って、本人が一番喜ばれることは何かということを忘れないよう努力している。		
39 <b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方は、本人に話を聞いたり、家族に話を聞いたり、書類に記入してもらったり古いアルバムを預かったりして把握に努めている。サービス利用の経過は毎日のケース記録とは別に、簡略化(重要な記事をまとめたもの)したものも作成している。		
40 <b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を用いることで心身状態や現状を利用者視点で把握している。また、普段の何気ない会話、ちょっとした「しぐさ」等で情報を収集するよう努めている。		全社員が、利用者の残存能力、潜在能力を発見する目をしっかり育て、常に課題を探し、すぐに対応できる行動力を身につけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	社員、嘱託医、本人等、必要な関係者と話し、介護計画を作成している。よく来られる家族の方は、その都度、話をすることができるが、あまり来られない家族の方には、介護計画を作成した上で、付け足す内容はないか？分からないことはないか？電話や郵送で確認している。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状態の変化には臨機応変に対応している。面会時には状態報告をし、計画の了解をもらったり、見直しを行っている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしや状態の変化等、見落としがないよう細かく客観的に書いている。社員はケース記録を必ず確認し状況を把握するようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の要望に応じて、その時にできる事であれば、柔軟に対応している。また、要望が困難な場合は後日検討し本人家族に提案している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	介護相談員やボランティアの方に来ていただき、懇談や大正琴の演奏をしていただいている。フォーマルな資源だけでなくインフォーマルな資源も活用し、支援している。	社会資源を見つけたり、地域にないものを創り出すという事を行いたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	夏祭りや餅つき等、地域の人々にも呼びかけて、ボランティアの要請をしたり、ホームに遊びに来てもらっている。	道路に近いところに椅子やテーブルを置き、近所の方々に利用してもらいたい。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在のところ、本人の意向や必要性がないので、他のサービスの利用の支援はしていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		家族の思いをしっかりと聞き、情報として持ち、終末期に対応していきたい。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		社員の医学知識も増やしていきたい。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		別の居所へ移り住む際にケア関係者に健康状態や本人の暮らし等、情報交換を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしないように会議等で日々話し合い社員の意識を高めるようにしているが、他利用者への迷惑行為等に繋がるなど安全が確保できない時は、やむを得ない場合もある。</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の興味が持てる声かけをしながらさりげなく支援し、意欲を持って行動できるように努めている。</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者の状態に応じて掃除や洗濯物干し・買い物等の声かけをし、よりそって一緒に家事を行うなかで、“できる力”を発揮してもらい、できないところを補っていくように支援している。</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できる限り利用者のペースに配慮しながら支援しているが、その日の利用者の状態によって安全を確保できない場合はやむを得ない場合もある。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>地域でボランティアを申し出ている理容院を利用させてもらっている。本人に行きたい店の希望があれば対応する。理容院に行くことができない利用者は、訪問美容師の来訪時に利用している。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の銘物を記載した用紙を台所に掲示しており、調理社員と協力・相談しながら、利用者の状態にあわせて(体調・祝い事・誕生日など)日々のメニューへ反映させ、社員と利用者が穏やかに食事できるよう支援している。</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>イベント(クリスマス会・正月)にワイン、日本酒、おやつ等食べてもらっている。日常生活においては状況に応じて支援している。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表に一人一人の排泄状況を記録し、排泄のパターンをすぐに把握できるようにしている。トイレ誘導の声かけを積極的に行い気持ちよく排泄して一日過ごすことができるよう支援している。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日可能である。その日の利用者の体調や気分に応じて、自由にゆっくりと入浴できるように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	夜間は熟睡できるよう支援している。利用者個々の排泄量や状況に応じて、トイレ誘導、オムツの交換をしている。就寝時間は決めていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者それぞれの趣味を尊重し、畑仕事が得意な人には、一緒に野菜を作ったり、楽しく過ごせるように、また、俳句作りが好きな人には自由に吟行できるように工夫し、ドライブ・買い物などの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の状態に応じて、お金を所持してもらっている。ホームにあるものをお金を出して買われる方や、自販機で自由にジュースを買われている方もおられる。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望にそって、買い物や散歩など、できるだけ外出できる様に支援している。		自分の行きたい時には自由に外出してもらいたい。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	誕生日や利用者の安全が確保できる日や体調が良い日には、利用者が行ってみたいところに、社員が個別に対応している。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば対応している。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホームに遊びに来られれば、コーヒー等を出し、居心地よく過ごしていただけるようにしている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	お客様の布団、ソファベッドを用意している。希望があれば対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭り、家族昼食会、餅つき、大正琴の演奏会等、家族の参加しやすい行事を考え取り入れている。行事の知らせをホームだよりに記載したり、プリントを郵送したりすることにより家族への参加を呼びかけている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	会議で拘束についての勉強をしている。	
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的に日中は玄関に鍵をかけることはないが、利用者の安全が確保できない場合は鍵を閉めるようにしている。鍵をかけることの弊害については会議にて話し合っている。	
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	社員間で連携をとり、所在、様子を把握するようにしている。	
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	安全を確保できるように工夫をしながら取り組んでいる。	
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の利用者の行動パターンや考え方などを確実に把握し、問題行動が起きそうときは目配り気配りを徹底することで事故を未然に防ぐようにしている。	
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	社員全員が消防署で救急救命講習を受け心肺蘇生法やAEDの扱い方を学んだ。また、ホーム内には救命・急変時の対応の方法や連絡網が明確に紙面に記されており、社員がいつでも確認できるようにしている。	
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故が発生してしまった時や事故につながるような場面にあった時には、報告書を書くようにしている。職員全員が必ず目を通すようにし、会議にて注意を促し事故防止の方法を検討している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		服薬のチェック体制を整える。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		これまで以上に積極的に歯の治療に取り組めるよう家族に理解を求めたい。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関をいつもオープンにしている。花壇をつくったりプランターに花を植えている。庭に椅子やテーブルを置きお茶を飲んでいる。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花を置いたり、見やすいカレンダーや時計、季節に応じたレイアウトに心がけている。調理のにおいや音が感じられるよう食事の支度はすべてリビングに面した台所で行っている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ロビーにソファ、火鉢を置いている。リビングや廊下に椅子・ソファを配し、利用者は思い思いの場所で過ごされている。	利用者が居室以外で一人になれる空間をつくりたい。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が家庭で使用されていた思い出の強い家具や家庭の写真などを持ってきていただき、足りないものや、利用者から要望があったものなどは、家族と相談の上一緒に買い物に行くなどして揃えている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計・湿度計、利用者の様子を観て定期的に換気をしている。換気する際は利用者に了解を得るよう心がけている。トイレや居室のにおい取りとして消臭剤や芳香剤を使用している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	できるだけ自立した生活ができるよう、個別に、身体状況に応じて、その都度居室内を工夫し、状態に応じて手すりをつける、動きやすい家具を配置するなど対応している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入口に利用者が混乱しないような表示をするなどの工夫をし、居室内部の家具配置に気を配っている。写真やカレンダー・本人の好きなペットの絵などを貼ることで、利用者が自分の居場所だと思えるなごみの環境づくりに心がけている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭の小さな池や花壇などの癒しの場に、たくさんの椅子やテーブルをしつらえ、安全に安心して散歩できる空間をつくらせている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム清瀬の里
所在地	下松市清瀬町3 1 10
電話番号	(0833) 44 5801
開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日

## 【サービスの特徴】

認知症高齢者の方が、自立した日常生活ができる生活環境づくり、家庭的なぬくもりや癒しのある住まいづくりをする。  
家事や野外での野菜づくり等を通じて、認知症高齢者の脳を活性化し、残存能力を発揮を促す。利用者本位のよいサービスを提供し、介護させていただいているという気持ちを忘れない。

## 【実施ユニットの概要】 ( 2 月 12 日現在 )

ユニットの名称	ユニット2			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 5 名	女性 4 名	
	要介護 1	1	要介護 4	0
	要介護 2	1	要介護 5	2
	要介護 3	5	要支援 2	0
年齢構成	平均 88.1 歳	最低 74 歳	最高 99 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	社員から意見を聴き、管理者・法人各2名ずつ、計4名が記入
評価確定日	平成 22 年 2 月 12 日

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b></p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b></p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b></p> <p>管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b></p> <p>運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b></p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b></p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		ホーム内でしか行っていない行事もあるので、新しい行事の提案を出して、もっと隣近所と関わりの持てる場をつくっていきたい。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b></p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b></p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を受けるときは、ありのままの生活状態で受け、その評価に対し会議で話し合い、改善に取り組んでいる。介護への取り組みの視点を項目で見直している。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	事業所からの提案を行い取り組みについての意見を受け止めサービスに活かしている。認知症について知りたい、家族はどのように対応したらよいのかという質問からの「いきいきサロン」の講師やサポーター養成の開催も取り組みの1つである。	サービスに活かせるような様々な角度からの意見・要望を多くいただくために、運営推進会議のありかたについて原点に戻り、会議の議題や内容をさらに検討したい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	毎月1回、利用者状況と待機者状況の報告を行っている。また、地域包括センターから地域での講師を依頼されたり相談をうけて対応したり介護相談員の受け入れなどの連携をとりながら、市町の要望と意向にそった形でサービス向上に活かしている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者は外部研修及び保有資格の研修を通じて学ぶ機会を持ち、社員は社員会議の中で管理者から学んでいる。利用者の家族から相談を受けたときには、制度についての説明や情報をきちんと伝えている。	家族昼食会の行事時、利用者家族の方や関係者に成年後見制度について話す機会を持ちたい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関することや虐待につながる行動を社員会議で取り上げ虐待の防止に取り組んでいる。外部研修に社員が参加し、会議で発表している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前に必ず本人や家族にしっかり説明している。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部から定期的に介護相談員の訪問があり、利用者は直接介護相談員に意見、不満、苦情を訴えることができ、出された意見等は事業所に提言されるようになっている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便り「清瀬の里だより」にて、利用者の状態を書くスペースをもうけ、担当社員が状態を報告している。家族が来られた際にも、近況を報告している。小遣い帳をつけ、領収書を送り、毎月の収支を報告している。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	開示の要求に応じて、ケース記録等を見てもらっている。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	重要事項説明書に苦情申し立ての連絡先や方法を記入し、家族の方に配布、ホームに提示している。苦情受付窓口があり、直接言いにくい場合は、家族会や家族会の代表者を通して、意見を出してもらえるようにも通知している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	社員会議で社員の意見や提案を聴く機会を設けると同時に、書類(稟議書)による提出で、社員意見を反映させている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態にあわせ家族等で話し、勤務時間帯の変更等、調整をしている。日中フリーに動ける社員がいるよう勤務を組んでいる。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	社員が働きやすい職場環境や福利厚生に気を配り、ポジティブアクションに取り組む中で結婚・出産による離職をできるだけなくすよう支援している。産休育休は現在まで2名(のべ3名)取得している。また、新入社員の入社後、約1ヶ月間は在職者とともにシフトを組んで利用者への援助を行うことで利用者が戸惑わない配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は年間の研修計画をたてており、社員会議等での内部研修のほか、段階に応じて外部研修を受講させている。業務の上でのスキルアップを図るための資格を取るための長期休暇(現場実習)にも柔軟に対応している。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	社員の年代・経験は多様であり、女性の多い職場だが、社員間では気軽に意見を交換し伝達できる環境が整っており、多様な個性を持ち合わせた社員による対応が可能となっている。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	行事を通じて、他ホームの職員や利用者、交流を深めている。2ヶ月に1回ケアマネジャーや管理者が集まり事例検討や情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		問題が発生した場合、社員から相談しやすい環境づくりに取り組みたい。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		社員がそれぞれ問題意識を持ち、目標をもって働くことができるよう、人事考課による評価を社員自身にフィードバックしたい。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		運営者・管理者の評価のみならず、社員自らの評価が反映されるような方法も考えていきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		社員と利用者は同じ空間で共に過ごす家族のような関係を保ち、時に笑い、怒り、泣くことで信頼を深め、形だけでなく、気持ちで通じ合える存在となれるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 <b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家庭的な雰囲気の中で社員と家族の方が一緒に介護していくという考えである。		重度化が進むと、もっと支え合う関係が必要になると思うので、連絡は密に取り合っていきたい。
34 <b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の間が険悪な場合、おしつけではなく、それとなく本人の状況などを報告し、面会に来ていただく様、話している。		
35 <b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族には行事等の参加を促し、できるだけ面会の機会を提供している。また、利用者にとっては思い出の写真を飾ったり、なじみのあるものをホーム内に置いている。年賀状はできるだけ利用者本人に書いていただいている。社員と一緒に利用者の自宅へ帰ることがある。		
36 <b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	笑ったり、助け合ったり、時には言い合いになったりと、毎日どこにでも見られる普通な生活だと思う。		
37 <b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	病院やスーパーで出会った際には、声をかけたり、声をかけていただいたりしている。時々、尋ねてくださる家族もあり、その際には近況報告を頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) <b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人の主訴に耳を傾け、意向に沿ったケアを状況に応じて行う。困難な場合は本人の立場に立って、本人が一番喜ばれることは何かということを忘れないよう努力している。		
39 <b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方は、本人に話を聞いたり、家族に話を聞いたり、書類に記入してもらったり古いアルバムを預かったりして把握に努めている。サービス利用の経過は毎日のケース記録とは別に、簡略化(重要な記事をまとめたもの)したものも作成している。		
40 <b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を用いることで心身状態や現状を利用者視点で把握している。また、普段の何気ない会話、ちょっとした「しぐさ」等で情報を収集するよう努めている。		全社員が、利用者の残存能力、潜在能力を発見する目をしっかり育て、常に課題を探し、すぐに対応できる行動力を身につけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	社員、嘱託医、本人等、必要な関係者と話し、介護計画を作成している。よく来られる家族の方は、その都度、話をすることができるが、あまり来られない家族の方には、介護計画を作成した上で、付け足す内容はないか？分からないことはないか？電話や郵送で確認している。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状態の変化には臨機応変に対応している。面会時には状態報告をし、計画の了解をもらったり、見直しを行っている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしや状態の変化等、見落としがないよう細かく客観的に書いている。社員はケース記録を必ず確認し状況を把握するようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の要望に応じて、その時にできる事であれば、柔軟に対応している。また、要望が困難な場合は後日検討し本人家族に提案している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	介護相談員やボランティアの方に来ていただき、懇談や大正琴の演奏をしていただいている。フォーマルな資源だけでなくインフォーマルな資源も活用し、支援している。	社会資源を見つけたり、地域にないものを創り出すという事を行いたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	夏祭りや餅つき等、地域の人々にも呼びかけて、ボランティアの要請をしたり、ホームに遊びに来てもらっている。	道路に近いところに椅子やテーブルを置き、近所の方々に利用してもらいたい。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在のところ、本人の意向や必要性がないので、他のサービスの利用の支援はしていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		家族の思いをしっかりと聞き、情報として持ち、終末期に対応していきたい。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		社員の医学知識も増やしていきたい。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしないように会議等で日々話し合い社員の意識を高めるようにしているが、他利用者への迷惑行為等に繋がるなど安全が確保できない時は、やむを得ない場合もある。</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の興味が持てる声かけをしながらさりげなく支援し、意欲を持って行動できるように努めている。</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者の状態に応じて掃除や洗濯物干し・買い物等の声かけをし、よりそって一緒に家事を行うなかで、“できる力”を発揮してもらい、できないところを補っていくように支援している。</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できる限り利用者のペースに配慮しながら支援しているが、その日の利用者の状態によって安全を確保できない場合はやむを得ない場合もある。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>地域でボランティアを申し出ている理容院を利用させてもらっている。本人に行きたい店の希望があれば対応する。理容院に行くことができない利用者は、訪問美容師の来訪時に利用している。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の銘物を記載した用紙を台所に掲示しており、調理社員と協力・相談しながら、利用者の状態にあわせて(体調・祝い事・誕生日など)日々のメニューへ反映させ、社員と利用者が穏やかに食事できるよう支援している。</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>イベント(クリスマス会・正月)にワイン、日本酒、おやつ等食べてもらっている。日常生活においては状況に応じて支援している。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表に一人一人の排泄状況を記録し、排泄のパターンをすぐに把握できるようにしている。トイレ誘導の声かけを積極的に行い気持ちよく排泄して一日過ごすことができるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日可能である。その日の利用者の体調や気分に応じて、自由にゆっくりと入浴できるように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	夜間は熟睡できるよう支援している。利用者個々の排泄量や状況に応じて、トイレ誘導、オムツの交換をしている。就寝時間は決めていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者それぞれの趣味を尊重し、畑仕事が得意な人には、一緒に野菜を作ったり、楽しく過ごせるように、また、俳句作りが好きな人には自由に吟行できるように工夫し、ドライブ・買い物などの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の状態に応じて、お金を所持してもらっている。ホームにあるものをお金を出して買われる方や、自販機で自由にジュースを買われている方もおられる。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望にそって、買い物や散歩など、できるだけ外出できる様に支援している。		自分の行きたい時には自由に外出してもらいたい。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	誕生日や利用者の安全が確保できる日や体調が良い日には、利用者が行ってみたいところに、社員が個別に対応している。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば対応している。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホームに遊びに来られれば、コーヒー等を出し、居心地よく過ごしていただけるようにしている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	お客様の布団、ソファベッドを用意している。希望があれば対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭り、家族昼食会、餅つき、大正琴の演奏会等、家族の参加しやすい行事を考え取り入れている。行事の知らせをホームだよりに記載したり、プリントを郵送したりすることにより家族への参加を呼びかけている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	会議で拘束についての勉強をしている。	
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的に日中は玄関に鍵をかけることはないが、利用者の安全が確保できない場合は鍵を閉めるようにしている。鍵をかけることの弊害については会議にて話し合っている。	
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	社員間で連携をとり、所在、様子を把握するようにしている。	
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	安全を確保できるように工夫をしながら取り組んでいる。	
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の利用者の行動パターンや考え方などを確実に把握し、問題行動が起きそうときは目配り気配りを徹底することで事故を未然に防ぐようにしている。	
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	社員全員が消防署で救急救命講習を受け心肺蘇生法やAEDの扱い方を学んだ。また、ホーム内には救命・急変時の対応の方法や連絡網が明確に紙面に記されており、社員がいつでも確認できるようにしている。	
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故が発生してしまった時や事故につながるような場面にあった時には、報告書を書くようにしている。職員全員が必ず目を通すようにし、会議にて注意を促し事故防止の方法を検討している。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		服薬のチェック体制を整える。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		これまで以上に積極的に歯の治療に取り組めるよう家族に理解を求めたい。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関をいつもオープンにしている。花壇をつくったりプランターに花を植えている。庭に椅子やテーブルを置きお茶を飲んでいる。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花を置いたり、見やすいカレンダーや時計、季節に応じたレイアウトに心がけている。調理のにおいや音が感じられるよう食事の支度はすべてリビングに面した台所で行っている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ロビーにソファ、火鉢を置いている。リビングや廊下に椅子・ソファを配し、利用者は思い思いの場所で過ごされている。	利用者が居室以外で一人になれる空間をつくりたい。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が家庭で使用されていた思い出の強い家具や家庭の写真などを持ってきていただき、足りないものや、利用者から要望があったものなどは、家族と相談の上一緒に買い物に行くなどして揃えている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計・湿度計、利用者の様子を観て定期的に換気をしている。換気する際は利用者に了解を得るよう心がけている。トイレや居室のにおい取りとして消臭剤や芳香剤を使用している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	できるだけ自立した生活ができるよう、個別に、身体状況に応じて、その都度居室内を工夫し、状態に応じて手すりをつける、動きやすい家具を配置するなど対応している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入口に利用者が混乱しないような表示をするなどの工夫をし、居室内部の家具配置に気を配っている。写真やカレンダー・本人の好きなペットの絵などを貼ることで、利用者が自分の居場所だと思えるなごみの環境づくりに心がけている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭の小さな池や花壇などの癒しの場に、たくさんの椅子やテーブルをしつらえ、安全に安心して散歩できる空間をつくっている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない